

都道府県別賞一等

## 理解する保険

山梨県 北杜市立甲陵中学校 三学年

森本 薫

僕がこの世に生を受けるにあたって二つの影響を与えるものがあつた。一つ目は外科医。帝王切開という方法で僕は生まれた。そういうこともあり小学生の頃から外科医が夢だ。二つ目は母が入っていた医療保険。手術代についてはいぶん助かったそうさ。貯蓄のあるなしに関わらず我々を助けてくれる保険はありがたい。そんなわけで僕は保険に恩を感じている。

もうだいたい前になるが、祖父がガンで七年にもなる長い闘病生活を送っていた。「闘病生活にはたくさんのお金がかかった」と祖母は話していた。やはりその場面でも生命保険にはお世話になったらしい。ただかなり昔の保険だったそうなので入院の保障は手厚かったけれども、最近使われている先進医療の保障はなかったそうさ。なので一回六千円にもなる薬を服用したりもしたらしい。祖父はしっかりと蓄えのある人だったから、なんとか耐えたけれども、中には治療を諦めてしまう人もいるかもしれない。ただその人が生命保険に入っていたとしたら安心して治療を受けられるかもしれない。医療技術は日々進歩している。だからそれに合わせて生命保険の内容も定期的に更新していった方がずっと安心だろうと学んだ。

話は変わるが、保険というものは加入年齢が若いと保険料が安いそうさ。僕は一人前になったら保険にはなるべく若い時に入りたいと思っている。また、僕の住む地域には「無尽」という制度がある。これはみんなでお金を出し合い、誰かが困ったら助けてあげるシステムだ。保険そっくりだ。きつともっと昔からそうやって助け合っていたのだろうと思うが、今は立派な大企業が「保険」としてやってくれている。たくさんの方が加入すればその分保障もしっかりしてくる。さらに保険会社は企業にお金を貸すなど集めたお金を運用して世の中に貢献しているという。

母は昔、無理をして大きな保険に入ってしまったことがある。金額が大きく毎月の支払いが大変だったようだ。初めの五年間はなんとか払っていたが、転職で収入が減り、さらに辛くなったらしい。解約を考え保険会社に足を運んだ。初めは解約のつもりだったが、結局は当時不要だった分を取り除いてもらったらしい。すると毎月の支払い金額は半分に。楽に支払えるようになったそうさ。そしてその保険が僕が生まれた時に助けてくれたあの医療保険だったのである。

## 第61回中学生作文コンクール

生命保険はたとえお金持ちでも入っておけばもしものリスクを最小限に抑えられる。日本は地震や火山が多い国だ。災害や事故でケガをすることはどの国民にもありうる。そんな時、ただでさえ大変なのにお金を出さなければならぬいなどどう考えても大変だ！ことわざに「転ばぬ先の杖」とあるが保険はまさにこの言葉通りだと思う。

正直なところ、僕はこの作文を書くまで保険について、特に生命保険など細かなところについてはほとんど知らなかった。とても曖昧な理解だったのだ。それがこの作文だけでも大きく変わった。このために聞いた家族の話は今まで全く知らなかった我が家の保険事情や僕の知識を大きく広げた。また僕がこれらの様々な話を聞いて編み出した一つの考えがある。それは「生命保険や損害保険など全ての保険は理解して使うことが大切」ということ。「とりあえず入っておこう」などという浅い考えで入るとこの作文で述べたような更新不足で大きな損失を被ったり、無理な支払いで家の財政が壊れたりと返って自分の生活をより苦しめてしまうと思う。逆にしっかり理解して保険を選ぶ人は自分の人生をずっと豊かにできる気がする。自分の人生、そして自分に関わる人達の人生をより良くするために僕はしっかり学び、理解し、考えて保険に入っていくたい。